



地球温暖化対策「パリ協定」について

地球温暖化対策として、1997年温室効果ガス（CO₂等）排出量削減の為、「京都議定書」が締結されました。この法的義務は、先進国のみに課せられた協定でしたが、2016年発展途上国を含む全ての参加国に排出削減の努力を課した、「画期的な「パリ協定」が発効しました。

「パリ協定」は、世界の平均気温上昇を産業革命前に比べ2℃より低く保つために1.5℃に抑える努力をする協定です。早期に温室効果ガス排出量をピークアウトし、21世紀後半に温室効果ガス排出量と森林等の吸収量のバランスをとることを長期目標としています。日本も「パリ協定」の締結国となり、主要排出国の排出削減を主導し、地球温暖化対策と経済成長の両立を目指しています。先般トランプ米大統領は、自らを支持する石炭産業労働者を守る（政治公約）との理由から「パリ協定」脱退を表明しました。

国際社会の混乱と、ホワイトハウスの地球温暖化対策推奨派の不服を招き米国会の混乱を招くことは必至と思われま

「パリ協定」を受け、日本は中期目標として2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度の水準から26%削減すると定め、様々な政策が検討されています。

さらに高い目標設定が必要という意見もありますが、米国は2005年と比べて18%削減、EUは1990年と比べて24%削減の目標です。日本の数値はかなり高い目標で、決して達成が楽な数値ではありません。政府と産業界が検討を重ね、様々な政策が考慮された実現性のある数値です。この目標を達成する為には、再生可能エネルギーの導入促進やエネルギーの更なる効率化が必要です。

政府は2030年のエネルギーミックス（割合）を徹底した省エネとともに、再生可能エネルギー22%、原子力20%とする等の電源構成の見直しを示しています。現在、原子力発電の賛否が議論されていますが、代替エネルギーの検討が大切な課題です。

企業は、これらの目標をビジネスチャンスと捉え、自社の温室効果ガス排出量の削減だけでなく、高機能素材

低炭素・省エネ製品の開発・国内外への普及をすることが求められます。家庭でも、エネルギーの使い方や消費行動を見直す必要があります。

環境対策としての省エネの必要性を述べましたが、経済と環境の両立を図る姿勢が大切です。経済発展なしに温暖化対策に有効な革新的技術も生まれません。画期的な省エネ製品への買い替えも難しくなります。排出削減の取り組みは経済・社会発展と同時進行させることが大切と考えます。

最近、二酸化炭素・窒素酸化物の削減の必要性から、ガソリン・ディーゼル車に代わり電気自動車（EV）の普及が推進されています。フランス政府は、2040年までにガソリン・ディーゼル車の販売を禁止し、電気自動車の普及を目指す宣言をしました。中国・インドも規制や補助金を使い電気自動車の販売を推進しています。ガソリン車を得意としている日本の自動車メーカーも電気自動車に対応しつつあるのが現状であります。

高齢者虐待は、高齢者の尊厳を損なう重大な権利侵害です。

地域で見守り、みんなで高齢者虐待を防止しましょう

高齢者虐待の種類

高齢者虐待には、「養護者による虐待（家庭内で起こる虐待）」と「養介護施設従事者等による虐待（施設内で起こる虐待）」があります。

- **身体的虐待**
殴る、手足を縛る、薬を過剰に飲ませるなど
- **介護・世話の放棄放任（ネグレクト）**
水分・食事などを十分に与えず、脱水・栄養失調の状態にするなど
- **心理的虐待**
怒鳴る、ののしる、子ども扱いするなど
- **性的虐待**
性的・わいせつ行為の強要など
- **経済的虐待**
必要な金銭を渡さない、使わせないなど

原因は介護疲れやストレスから

厚生労働省調査によると、家庭内での虐待発生要因で最も多いのは「介護者の介護疲れ・介護ストレス」です。介護に疲れたり、悩んだ時は担当のケアマネジャーや地域包括支援センター、健康長寿課などに早目に相談しましょう。

地域での気付きで早期発見

高齢者虐待は、家庭や施設などの密室で起こりやすいため表面化しにくく、虐待の自覚が双方にないこともあり、被害が徐々に拡大する傾向にあります。高齢者虐待は、早期に発見、支援していくことが大切です。

高齢者虐待相談窓口

虐待かも？と思ったらすぐに相談

養護者による虐待 安芸高田市地域包括支援センター ☎47-1132
養介護施設従事者等による虐待 健康長寿課 高齢者生活支援係 ☎47-1281
 ※相談者を特定する情報については、守秘義務がありますので、安心してご相談ください。

からだの健康は歯と歯ぐきから 介護（認知症）予防講演会及び物忘れ相談プログラム測定会

9月28日（木） 園クリスタルアージョ
 吉村歯科医院の吉村院長を講師に迎え、『介護予防と口腔ケア』をテーマにした講演会を開催。講演後、中村歯科衛生士による『口腔体操』では、参加者全員で舌を動かしたり、唾液腺のマッサージなどを行いました。また、併せて実施した物忘れ相談プログラム測定会には24名が参加しました。



オレンジリングは認知症の応援者のシンボル 認知症サポーター養成講座

10月4日（水） 園クリスタルアージョ
 認知症について正しく理解し、温かく見守る応援者『認知症サポーター』の養成講座を開催しました。認知症の症状等の講座の他、対応方法を寸劇を交えながら分かりやすく解説。終了後には、サポーターのシンボル『オレンジリング』を受け取りました。市の認知症サポーターは10月末現在3,398人です。

